

ホームライゼーションをめぐって

一人ひとりが主人公

精神保健福祉は、精神障害者だけでなく、こころの健康を保とうとするすべての人々のためのものです。精神障害を予防・治療しようというだけでなく、こころの健康を保持・向上させる活動を進めていくこと、そして何より、さまざまな形での障害があっても、すべての人々が個人として尊厳を持って生きていくことにつながっているのです。



ゆうさんりハビリ教室生作品

人間関係の中での不安

「自分はほかの人にはどんな風に見えるんだろう?」

たわいもない会話の中で、精神障害がある一人の男性が

働くということ

精神障害者の就労については、まだまだ大きな課題が残されている。

精神障害者には、人間関係の不得意さなど、障害によるハンディキャップ以外に偏見

障害を超えて...

身体・知的・精神障害... 互いの障害は異なっても、同じ痛みを持つ仲間として、「障害はあっても、できることはたくさんある」と、共に手を取り合い、共に歩んでいくことさまざまな活動に取り組んでいる。障害があること、の悲しみや戸惑い、不安やつらさなど、同じ体験をした仲間として支え合っていく。そして、地域の人々と共に障害を障害と感じさせない、誰もが当たり前に生きることのできる社会をめざしている。



障害を超えて(交流)



つぶやいた。思ってもみなかった質問にとまどったことを覚えている。定期的な受診と服薬によって、幻聴や妄想といった症状は落ち着き、日常生活も安定していた方だっただけに驚きが強かった。



他人の目に自分はどんな風に映るのか? 自分はどう思われているのか?

そんな不安を抱えながら、地域の中で暮らしているたくさんの方々の障害者のこころの傷に、どれだけの人が気づくことができていくだろうか。



就労支援ビデオ「夢をつむぐ」

という壁が立ちはだかっている。そのため職場で、自分の障害のことを語ることで、まだまだ大きな課題が残されている。

精神障害者には、人間関係の不得意さなど、障害によるハンディキャップ以外に偏見

ある50代の障害者はこう語ってくれた。「自分は何度も働きにでた。最初のうちはいいが、どこからか自分が精神障害者ということが分かって、どの事業所も解雇された。それがもう何度も繰り返された。自分はもう働けない...」

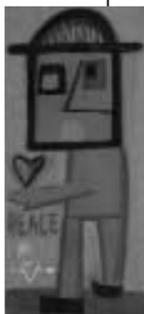
精神障害者ということと解雇されるのではないかと不安、周囲を気にして服薬も満足にできない人、障害のため激減する収入、それを支える家族の痛み、障害者の意欲を奪ってしまう、このような現状を私たちはどれだけ知っているのだろうか。

今、精神障害者の就労を考えるうえで、乗り越えるべき課題は幾重にも重なっている。

『ねがってやまない』

作業所に来るみんなは心が風邪をひいちゃった人たちなんです
「悲しい」「くやしい」「残念だ」
この気持ちを分かかってほしいとねがってやまない
「周囲が白い目で見ると」「さけられる」
風邪をひいていない人たちと同じことはできないけれどそれは絶望じゃない
やれることだってある
同じ町で、村と一緒に暮らしていける
この気持ちを分かかってほしいとねがってやまない

野市町 あけぼの共同作業所 寺川武志さんの詩より



分かっただけいい 知っただけいい 気づいてほしい

人は人の中で生きています。障害があってもなくても、誰もが人のぬくもりに癒されたいと思っています。共に生き、こころを大切に作る社会をめざして...

南国市においても地域の中で精神障害者の方や家族が、いろんな不安を抱えながら生活している。そのことを...